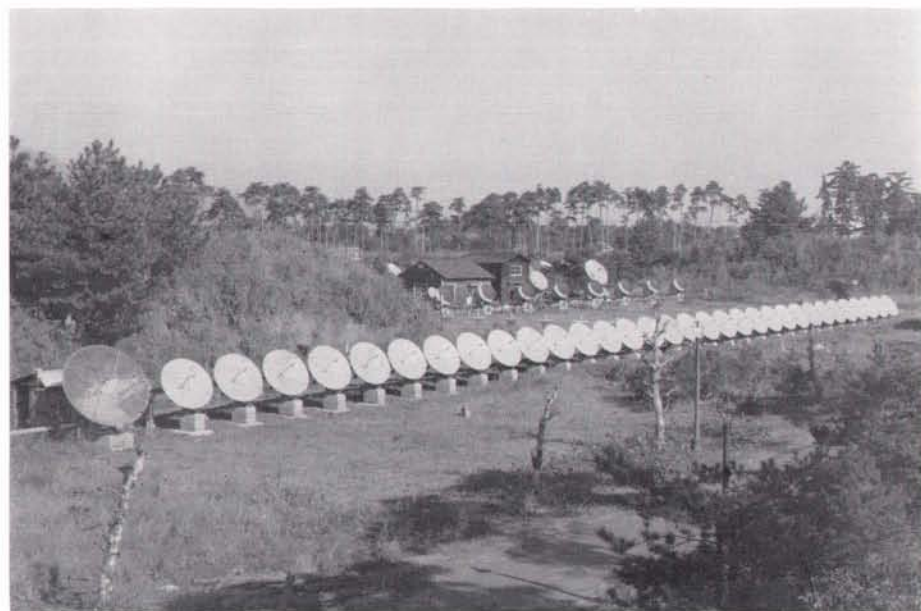


月報アルバム

名古屋大学空電研究所

愛知県豊川市にある名古屋大学空電研究所では、このほど写真上のような新庁舎が落成した。新庁舎は建築面積 1202 m²、3 階建てで研究室、実験室のほかに管理部屋や図書室、講義室、計算機室がある。写真下は同所構内にある 9400 MHz 電波の複合干渉計で直径 2 m のパラボラアンテナ 32 個が 180 m にわたって並んでいる。東西方向の分解能は 21'' で、これによって太陽面上の電波の強度と偏波の分布を測定する。なお同じ構内にはこれと同様な 3750 MHz の複合干渉計もある。



ゲッティンゲン大学天文台

(112 頁参照)





- ① ハイネの「ハルツ紀行」に“シュテルンヴァルテ”として紹介されているゲッティンゲン大学天文台の正面。建物は1816年に完成したもので、当時の台長であったガウスはこの建物に住んでいた。
- ② ゲッティンゲン市外のハインベルクにある塔望遠鏡。直径 60 cm のシーロスタットと合成焦点距離 24 m の鏡系を備え、0.2 A~1 A/mm のスペクトルを得る。
- ③ 南スイスのロカルノにある太陽観測所の観測室。口径 45 cm のグレゴリー・クーデ式望遠鏡で 0.25 A~0.1 A/mm のスペクトルを作り、光電式マグネトグラフで、磁場、偏光、ドップラー効果を同時に観測する。
- ④ ゲッティンゲン大学天文台のメンバー。遠足の日（1966年6月27日）の朝、天文台の中庭で撮影。右端から Behr, Voigt, Kippenhahn の各教授。
- ⑤ ゲッティンゲン市内の公園にあるガウスの墓。